

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	現代の国語	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	『高等学校 精選現代の国語』（第一学習） 『常用漢字ダブルクリア 五訂版』（尚文） 『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』（数研）		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
履修上の注意点	・ 考査等の点数だけでなく、ノートやプリント類への記述、レポート等の成果物、授業への参加態度等を総合的に判断する。 ・ 他者との交流や自分との対話を通して、多様なものの見方・考え方にふれたり思考を深めたりしていくこと。 ・ 授業中に考えたことを提示するためにも、提出物は必ず出すこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題		○	○	
	小テスト	○		○	
	ふりかえり			○	
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単 元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	物事の 捉え方	平野啓一郎 「本当の自分」幻想	13	- 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えが的確に伝わるように、根拠の示し方を工夫する。	- 定期考査 - ノート - ワークシート - 成果物 - 発表 - 小テスト - ふりかえり
	書いて 伝える	実用的な手紙文の書き方	2	- 実用的な手紙文の書き方を理解し、実践する。 - 相手に情報を適切に伝える文章の書き方を習得する。	
	論理分 析	高階秀爾 「間」の感覚	7	- 文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。 - 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。	
	話して 伝える	スピーチで自分を伝える①	4	- 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 - 他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	
2	社会と 人間	内田樹 フェアな競争	12	- 筆者が自説を述べるための論の進め方を捉え、「社会的共通資本」と「フェアな競争」との関係を押さえる。 - 文章に含まれている情報を相互に関連づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。	- 定期考査 - ノート - ワークシート - 成果物 - 発表 - 小テスト - ふりかえり
	書いて 伝える	地域の魅力を紹介する	3	- 情報を的確に紹介する方法を理解する。 - 必要な情報や資料を収集・整理し、わかりやすい紹介文を書くために活用する方法を理解する。	
	論理分 析	坂本俊生 「私作り」とプライバシー	7	- 文章を分析的に読み、事実から情報を抽出し、意見を形成していく論理の展開について理解する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、文章の構成や論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。	

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
	話して 伝える	スピーチで自分を伝える②	4	- 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 - 他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	
3	言葉と 情報	林香里 現代の「世論操作」	10	- 情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者としての問題意識を持つ。 - 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 - 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 - 自分の考えが的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。	- 定期考査 - ノート - ワークシート - 発表 - 小テスト - ふりかえり
	話して 伝える	スピーチで自分を伝える③	4	- 自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 - 他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。	
	話して 伝える	待遇表現	4	- 敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 - 相手や場に応じた表現が選択できるようになる。	

令和6年度 シラバス

教科名	国語	科目名	言語文化	履修学年	第 1 学年
単位数	2	使用教材	『高等学校 精選言語文化』（第一学習） 『九訂版読解をたいせつにする体系古典文法』（数研） 『プレミアムカラー国語便覧 改訂版』（数研）		
科目目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 （２）論理的に考える力や深く共感したり想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 （３）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
履修上の注意点	・ 考査等の点数だけでなく、ノートやプリント類への記述、レポート等の成果物、授業への参加態度等を総合的に判断する。 ・ 他者との交流や自分との対話を通して、多様なものの見方・考え方にふれたり思考を深めたりしていくこと。 ・ 授業中に考えたことを提示するためにも、提出物は必ず出すこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	提出課題		○	○	
	小テスト	○		○	
	ふりかえり			○	
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	古文入門	古文の学習	2	・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る。	・定期考査 ・ノート ・ワークシート ・成果物 ・小テスト ・ふりかえり
	歌物語	『伊勢物語』 「芥川」	9	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。 ・歌物語では感動の中心が歌にあることを理解し、内容や展開を的確に捉える。 ・絵画資料と読み比べ、解釈を深める。	
	古典文法 (用言)	品詞の種類、活用と活用形 動詞の活用	10	・品詞の種類と特徴を押さえ、用言(動詞)の活用の種類と活用の規則を理解する。	
	小説1	芥川龍之介『羅生門』	5	・小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。	
2	小説1	芥川龍之介『羅生門』	5	・下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	・定期考査 ・ノート ・ワークシート ・成果物 ・小テスト ・ふりかえり
	短歌・俳句	俳句	5	・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・我が国の言語文化に特徴的な、俳句の表現の技法とその効果について理解する。	
	小説2	夏目漱石『夢十夜』	6	・「夢」という非日常性を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。	
	随筆1	『枕草子』 「九月ばかり」	5	・自由に記述された随筆を読んで、当時の人々の生活感覚や興味の対象を知り、ものの見方・考え方を理解する。 ・「歴史の窓」と読み合せて、作品の歴史的・文化的背景を理解する。	
	古典文法 (用言)	形容詞・形容動詞の活用	5	・用言(形容詞・形容動詞)の活用の種類と活用の規則を理解する。	

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
3	古典文法 (漢文)	訓読に親しむ 返り点の種類と用法 再読文字の種類と意味	5	- 漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方を習得する。 - 漢文を訓読するための基礎知識として、再読文字の種類と読み方を習得する。 - 訓読のきまりを理解する。	- 定期考査 - ノート - ワークシート - 小テスト - ふりかえり
	漢詩	唐詩の世界 李白「黄鶴楼」 杜甫「春望」	4	表現や技法(押韻や対句)に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	
		日本の漢詩 中野逍遙「道情」	2	- 日本で読まれた漢詩を鑑賞し、人への思いがどのように表現されているかを読み取る。 - 作品に表れているものの見方や考え方を捉え、内容を解釈する。 - 漢詩の決まりを理解する。	
	故事成語	『戦国策』 「漁父之利」	7	- 漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 - 文章の種類を踏まえて、たとえ話を読み解き、内容や展開を的確に捉える。 - 故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	

令和6年度 シラバス

教科名	地歴公民	科目名	歴史総合	履修学年	第 1 学年
単位数	2 単位	使用教材	教科書 第一学習社「新歴史総合」 副教材 第一学修社「ダイアログ歴史総合」 副教材 第一学修社「新歴史総合ノート」		
科目目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 （２）近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したりする力を養う。 （３）近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に研究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。				
履修上の注意点	・ 学習の基本は授業である。集中して取り組みこと。 ・ 復習やノート・課題等の提出を怠らない。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート		○	○	
	課題（小テスト含む）			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 近代化と 私たち	第1節 18世紀のアジアの繁栄	3	・18世紀のアジアや日本における生産と流通，アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に，18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 工業化の進展と国民国家の建設	10	・産業革命と交通・通信手段の革新，中国の開港と日本の開国などを基に，工業化と世界市場の形成を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		第3節 結び付く世界と日本の開国	8	・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向，日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に，立憲体制と国民国家の形成を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		第4節 帝国主義とアジア諸国の変容	8	・列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争などを基に，列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
2	第2章 国際秩序 の変化や 大衆化と 私たち	第1節 第一次世界大戦と大衆社会	10	・第一次世界大戦の展開，日本やアジアの経済成長，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に，総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。 ・大衆の政治参加と女性の地位向上，大正デモクラシーと政党政治，大量消費社会と大衆文化，教育の普及とマスメディアの発達などを基に，大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		第2節 経済危機と第二次世界大戦	12	・世界恐慌，ファシズムの伸張，日本の対外政策などを基に，国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の展開，国際連合と国際経済体制，冷戦の始まりとアジア諸国の動向，戦後改革と日本国憲法の制定，平和条約と日本の独立の回復などを基に，第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
		第3節 第二次世界大戦後の世界と日本	6	・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響，第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，第二次世界大戦の性格と惨禍，第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活，日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し，表現する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）
	第3章 グローバル化と 私たち	第1節 冷戦と植民地化・第三世界の台頭	6	・冷戦が各国経済に及ぼした影響，地域連携の背景と影響，日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，冷戦下の世界経済や地域連携の特徴，経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し，表現する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
3		第2節 世界秩序の変容と日本	7	・ 冷戦の変容と終結の背景，民主化や地域統合の背景と影響，地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して，主題を設定し，日本とその他の国や地域の動向を比較したり，相互に関連付けたりするなどして，冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し，表現する。	知：定期考査 思：定期考査 ワークシート 主：課題（小テスト含む）

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	履修学年	1
単位数	3	使用教材	高等学校 数学Ⅰ（数研出版） REPEAT 数学Ⅰ（数研出版）		
科目目標	数と式，集合と命題，図形と計量，2次関数及びデータの分析について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 ② 適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 ③ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。				
履修上の注意点	予習復習を行い、授業に参加すること。 提出物は期限を守り提出すること。 タブレットの活用にも意欲的に取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	考査課題		○	○	
	平常課題			○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 数と式	第1節 式の計算	8	・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりする。他の計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。
		第2節 実数	5	・数の体系についての理解を深め、実数が四則演算に関して閉じていることを学ぶ。	思：定期考査や課題で数や式を利用し論理的に考察できているか確認する。タブレットが利用できているか確認する。
		第3節 1次不等式	8	・不等式の解の意味や不等式の性質について理解する。	主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。
	第2章 集合と命題		8	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	
	第3章 2次関数	第1節 2次関数とグラフ	10	・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解する。 年間を通して、定期考査では知識技能の定着を問う問題と、思考力を問う問題を分けて出題する。また、小テストでは知識技能の定着と、主体性を評価する。タブレットを活用し課題提出などを行う。また、授業の振り返りや自己評価を行う。 1学期では、タブレットの利用を意欲的に行うことを評価する。2次関数の範囲では、GeoGebraなどのソフトを活用し、グラフの変化などをタブレットを活用し調べ、課題として提出する。	
2		第2節 2次関数の値の変化	7	・関数の値の変化を考察し、最大値や最小値を求めることができるようにする。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。
		第3節 2次方程式と2次不等式	14	・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解する。	思：定期考査や課題で2次関数を利用し論理的に分析できているか確認する。タブレットが活用できているか確認する。
	第4章 図形と計量	第1節 三角比	9	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。	主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。
		第2節 三角形への応用	10	・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く。正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。 2学期では、タブレットを状況に応じて適切に活用することを評価する。図形と計量の範囲では、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、課題を解決する力などを培う。	
3	第5章 データの分析	データの分析	9	目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行う。データの傾向を把握し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。
		問題演習	8	3学期では、タブレットを活用し具体的なデータを処理することを評価する。データの分析の範囲では、与えられたデータから情報を読み取るための手段としてタブレットを的確に用いる力を培う。	思：定期考査でデータを利用し論理的に考察、分析できているか確認する。タブレットを使い正確に情報を処理できているか確認する。
	1年間のまとめ	問題演習	9	既習内容の定着を図り問題演習に取り組む。	主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。

令和6年度 シラバス

教科名	数学	科目名	数学 A	履修学年	1
単位数	2	使用教材	高等学校 数学 A（数研出版） REPEAT 数学 A（数研出版）		
科目目標	図形の性質，場合の数と確率について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。 ① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を論理的に考えたり、数学的に解釈・表現・処理したりする技能を身に付ける。 ② 図形の性質を学習し，論理的に考察する力を養う。不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を養う。数学と人間の活動との関わりに着目し，事象の数学的な構造を見いだしたり、数学的に考察する力を育てる。 ③ 数学のよさを認識して、数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察・評価・改善をしようとする態度、および創造性の基礎を育てる。				
履修上の注意点	予習復習を行い、授業に参加すること。 提出物は期限を守り提出すること。 タブレットの活用にも意欲的に取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	考査課題		○	○	
	平常課題			○	
	小テスト	○	○	○	
	各観点の割合	4 0 %	3 0 %	3 0 %	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 場合の数 と確率	第1節 場合の数 第2節 確率	15 20	・場合の数を求めるときの基本的な考え方に対する理解を深め、具体的な計算を練習するとともに事象の考察に活用できるようにする。 ・確率の考え方や性質に対する理解を深め、具体的な計算を練習するとともに事象の考察に活用できるようにする。 年間を通して、定期考査では知識技能の定着を問う問題と、思考力を問う問題を分けて出題する。また、小テストでは知識技能の定着と、主体性を評価する。タブレットを活用し課題提出などを行う。また、授業の振り返りや自己評価を行う。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で場合の数や確率を利用し論理的に考察できているか確認する。 主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。
2	第2章 図形の性質	第1節 平面図形 第2節 空間図形	20 7	・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 図形の性質の範囲ではタブレットを活用する。円と直線の範囲では、それらの関係を動的に捉えて位置関係を考察する。多面体の切り口などを視覚的に考察する。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で平面図形や空間図形を利用し論理的に分析できているか確認する。 主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。
3	第3章 数学と人間の活動		8	・整数を中心として、様々な人間の活動の中にある数学を知り、数学の内容の理解をより深めると同時に、現実の事象を数学に結び付けて考察できるような力を育てる。	知：定期考査や小テストで知識の定着を確認する。 思：定期考査や課題で整数を利用し論理的に考察、分析できているかを確認する。 主：課題の取り組み状況などで、数学を活用する態度を評価する。

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	物理基礎	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 数研出版 新編物理基礎 問題集 数研出版 フォローアップドリル物理基礎 1 運動の表し方・力・運動方程式 2 仕事とエネルギー・熱		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
履修上の注意点	・ 持参物：教科書、問題集、授業ノート ・ 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 ・ 物理量の単位や測定値の有効数字に注意をして計算をする。 ・ 実験をした内容と物理の基本原則・法則を関連づけて理解する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート (問題集)			○	
	実験レポート・ 探究活動		○	○	
	小テスト			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	第1編 運動とエネルギー	第1章 運動の表し方 有効数字と測定値の計算 速度 加速度 落体の運動 第2章 運動の法則 力とそのはたらき 力のつりあい	26 (12) (14)	身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法について理解させる。 速度・加速度について理解させ、等加速度直線運動を定量的に扱えるようにする。 等速直線運動・等加速度直線運動をもとにして落体の運動を理解させる。 物体にはどんな力が働くかを理解させる。 物体に働く力のつりあいを理解させる。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート (問題集、小テスト)
2	第1編 運動とエネルギー	運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力 第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存	26 (14) (12)	ニュートンの運動の3法則を理解させる。 様々な運動について、運動方程式が応用できるようにする。 摩擦について理解させ、力のつりあいや運動方程式に活用できるようにする。 圧力や空気抵抗について理解させる。 仕事の概念を理解させる。 力と変位のなす角によって仕事量が変わることを理解させる。 運動エネルギーと位置エネルギーについて仕事と関連づけて理解させる。 力学的エネルギー保存の法則を理解させ、様々な運動に活用できるようにする。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート (問題集、小テスト)
3	第2編 熱	第1章 熱とエネルギー 熱と物質の状態 熱と仕事	18 (9) (9)	熱と温度について、熱運動の視点から理解する。 熱意の移動と熱と仕事の変換について理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集、小テスト)

令和6年度 シラバス

教科名	理科	科目名	生物基礎	履修学年	第1学年
単位数	2	使用教材	教科書(生物基礎・東京書籍)、ワーク(リード Light ノート生物基礎・数研出版)、プリント、タブレット		
科目目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。				
履修上の注意点	・持参物：教科書、問題集、授業プリント ・生物の多様性や共通性を学び、基本的な理解を深める。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート (問題集)		○	○	
	実験レポート・ 探究活動		○	○	
	小テスト・振り返り	○		○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	1編 生物の特徴	1章 生物の多様性と共通性 1節 生物の多様性 2節 生物の共通性 3節 細胞の特徴 2章 生物とエネルギー 1節 生体とATP 2節 生体内の化学反応 3節 呼吸と光合成	12 (6) (6)	- 地球上にすむ生物の種数が膨大であることに気づき、地球上に多様な種がみられるのはなぜか考える。 - 生物の多様性と共通性について整理する。 - ATPの構造を学び、生物の代謝でエネルギーの流れを理解する。 - 代謝における酵素のはたらきや仕組みを理解し、重要な物質であることを理解する。 - 呼吸と光合成について学び、物質の循環やエネルギーの流れを学ぶ。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
	2編 遺伝子とそのはたらき	1章 遺伝情報とDNA 1節 生物と遺伝子 2節 DNAの構造 3節 DNAの複製と分配 2章 遺伝情報とタンパク質 1節 タンパク質 2節 DNAとタンパク質 3節 細胞分化と遺伝子	14 (7) (7)	- 親から受け継ぐものには遺伝するものと遺伝しないものがあることに気づき、遺伝子の本体はDNAであることを理解する。 - DNAの構造や複製、細胞分裂における遺伝子の分配について学び、全細胞が同じ遺伝情報を持つことを理解する。 - DNAからタンパク質ができるまでの流れを理解し、私たちの体を作る情報は遺伝子が持つことを理解する。 - それぞれの細胞で異なる遺伝子が発現されることにより、細胞が分化していくことを理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
2	3編 ヒトの体の調節	1章 体内環境と情報伝達 1節 体内環境 2節 神経系による情報伝達 3節 ホルモンによる情報伝達 4節 血糖濃度の調節	14	- 体内環境を一定に保つために働く仕組みを学び、体内で行われていることに興味をもつ。 - 体内環境における体液の働き、神経やホルモンによる情報伝達について学び、流れと仕組みを理解する。 - 血糖濃度調節における情報伝達を学び、日本人に多い糖尿病について関心を持つ。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り
	4編 生物の多様性と生態系	2章 免疫のはたらき 1節 免疫のしくみ 2節 免疫記憶 3節 免疫の異常 1章 植生と遷移 1節 植生とその環境	12 (8) (4)	- 体内に侵入する異物への防御や、攻撃に関する免疫について流れや仕組みを学び、免疫の重要性について気付く。 - 免疫に関する細胞について学び、免疫記憶の流れを理解する。 - 自身を守るためにある免疫が、体内環境に不利益なことを起こすことがあることを学び、理解する。 - 身の回りの植物が生えている環境を観察し、森林の構造を学び、環境要因の中でも光量が大きく関わることを理解する。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り

学 期	単 元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
3	4 編 生物の 多様性 と生態系	2節 植生の遷移 3節 遷移とバイオーム 2章 生態系と生物の多様性 1節 生態系における生物の多様性 2節 生態系における生物間の関係 3節 生態系の攪乱 4節 生態系の保全	18 (8) (10)	・荒原から森林ができるまでの流れを理解し、世界と日本におけるバイオームを学ぶ。 ・生態系における生物間の関係を理解し、多様性を学ぶ。 ・人間の活動によって起こる生態系の攪乱を学び、どのように保全しながら共存していくか考える。	知：定期考査 思：定期考査 実験レポート 主：ワークシート(問題集) 探究活動 小テスト・振り返り

令和6年度 シラバス

教科名		保健体育	科目名	体育	履修学年	第1学年
単位数		3単位	使用教材	現代高等保健・ステップアップ高校スポーツ 2024		
科目目標		① 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正・協力・責任などの態度を身に付ける。 ② 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身に付ける。 ③ 選択した運動種目の技術やルールなどの理解を深める。 ④ 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身に付ける。				
履修上の注意点		① 領域に応じた服装で受講する。 ② 学習ノートの提出を行う。 ③ 運動制限等がある者は別の課題を行い評価を受ける。見学する際は見学届けを記入し、提出する。 ④ 球技については、同一種目を選択することはできない。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度		
	主体性			○		
	協調性			○		
	技能テスト	○				
	ルールテスト	○	○			
	実技ノート		○	○		
	各観点の割合	40%	30%	30%		

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	A 体づくり運動	・新体力テスト	15	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解し、健康の保持増進や体力の向上を目指す。	知・技：新体力テスト得点 知・技：行動様式 ・協調性 思：安全性 主：主体性 実技ノート
	H 体育理論	・集団行動 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展		・集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を学び、集団が安全かつ能率的に行動する。 ・「する、みる、支える、知る」といった生涯にわたる豊かなスポーツライフを主体的に実践できるようにする。	
	B 器械運動	・マット運動	25	・技ができる楽しさや喜びを味わい、体力の高め方などを理解し、自己に適した技で演技することができる。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	C 陸上競技	・短距離走，ハードル走		・記録の向上、競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解し、各種目特有の技能を身に付ける。	
	G ダンス から1種目選択	・現代的なリズムのダンス		・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方を理解する	
2	E 球技	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	25	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	F 武道 から1種目選択	・柔道		・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称、体力の高め方などを理解する。 ・基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。	
	E 球技	・ネット型 ・ゴール型 ・ベースボール型 ・ターゲット型	25	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート
	F 武道 から1種目選択	・柔道		・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称、体力の高め方などを理解する。 ・基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができるようにする。	
3	C 陸上競技	・長距離走	15	・1000m～5000mを中心に取り組む。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。	知・技：技能テスト・協調性 思：ルールテスト・安全性 主：主体性・実技ノート

令和6年度 シラバス

教科名	保健体育	科目名	1 年 保健	履修学年	第 1 学年
単位数	1 単位	使用教材	大修館 現代高等保健体育・図説・プリント		
科目目標	①個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践できる能力を育成する。 ②健康や安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について課題解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。 ③心身の安全や健康に関する課題解決を目指し、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を適切に判断できる力を身に付ける。				
履修上の注意点	① 教科書を中心に副教材を使用して、授業を展開していく。 ② タブレットを活用して授業を展開していく。 講座に関係する時事問題などをプリントし、参考資料として活用する。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	ワークシート			○	
	実習課題・小テスト		○	○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単 元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	1 現代 社会と 健康	01 健康の考え方と成り立ち 02 私たちの健康のすがた 03 生活習慣病の予防と回復 04 がんの原因と予防 05 がんの治療と回復 06 運動と健康 07 食事と健康 08 休養・睡眠と健康	12	健康のとらえ方の歴史を振り返る 生きることと病気について考える がんの克服を目指して（がん治療の最前線） がんとともに生きる人々を支える取り組み 自分の身体活動量を調べる BMI から自分の肥満度を調べる	各授業のワークシート 中間 ノート提出 1 学期期末考査 期末 ノート提出
2		09 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその 予防 18 健康に関する意思決定・ 行動選択 19 健康に関する環境づくり	14	酒の広告について考える 薬物乱用への誘いに対処してみる ストレスや不安に対処 うつ病からの回復をたどる 新たなインフルエンザを警戒 新たな脅威「薬剤耐性菌」 一気飲みを防ぐ 望ましくない習慣をやめる作戦を考える 暮らしているだけで健康になる環境を考える	各授業のワークシート 中間 ノート提出 感染症の調べ学習 レポート 2 学期期末考査 期末 ノート提出
3	2 安全 な社会 生活	01 事故の現状と発生要因 02 安全な社会の形成 03 交通における安全 04 応急手当の意義と その基本 05 日常的な応急手当 06 心肺蘇生法	9	時間の流れにそった防災・避難計画をつくる 犯罪から身を守る 心肺蘇生法を実習	各授業のワークシート 心肺蘇生法の実技 とペーパーテスト 3 学期期末考査 ノート提出

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	書道Ⅰ	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書：東京書籍『書道Ⅰ』		
科目目標	・書写能力の向上と表現力・鑑賞能力を高めながら、自己の心の豊かさを養っていく。				
履修上の注意点	・高校書道は、小・中学校書写より広域である。芸術として扱っていくので頭を柔軟にした姿勢を望む。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	作品等	○	○	○	
	小テスト	○	○		
	提出物			○	
	用具の取り扱い			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	●書に親しむ	書写と書道 漢字仮名交じりの書	13時間	用具・用材・姿勢・執筆法 漢字と仮名の調和 用具・用材による表現の変化 紙面構成のバリエーション	①、②、③
	●生活の中の書 ●漢字の書	実用書 楷書	13時間	はがきの書き方 検定3級程度 様々な楷書 書風の比較と鑑賞 書美の解明から表現への展開	①、②、③
2	行書	行書	15時間	楷書との比較から運筆の違いや筆路について学ぶ 王羲之の書 ・古典の比較を通して、共通点と相違点の確認 ・古典の特徴の解明から表現活動へ 顔真卿の書 空海の書	①、②、③
	●生活の中の書 ●仮名の書	実用書 古筆から学ぶ	15時間	封筒・便箋の書き方 慶弔用語の書き方 歴史・筆づかい・単体・連綿について学ぶ 古筆の鑑賞と臨書	①、②、③
3	●仮名の書		14時間	散らし書き 仮名の創作	①、②、③

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 高校美術Ⅰ（日本文教出版）		
科目目標	・中学校で行ってきた学習をより発展させ、観察や想像に基づいて主題を把握し、表現の方法を工夫し意図的、計画的に表現する態度を育てる。 ・美術の幅広い活動を通して感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
履修上の注意点	・制作が中心になります。 また、各制作の最後には、作品の相互鑑賞を行います。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	授業態度			○	
	作品	○	○		
	鑑賞	○		○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	素描	「リンゴ」 「手」	9 9	○観察力を高める ・自身の手を描くことで観察力を高める。 ・形態、明暗、陰影などの表し方を工夫する。	①、②、③
	コラージュ	「自分自身」	1 3	・身近な素材を用いて、抽象表現の基礎を学ぶ。	①、②、③
2	風景写生	「自分の場所」	1 3	・季節の変化を観察しながら、自然の美しさを発見する。 ・空間的な表現を、制作を通して学習する。	①、②、③
	プッシュステンド	「夢の世界」	1 3	・プッシュステンドを用いて、計画的な制作を学習する。 ・自身が持つイメージを具体的に表現する。	①、②、③
3	デザイン	「ゼンタングル」	1 3	・抽象的な文様からデザインを考え、作品を制作する。	①、②、③

令和6年度 シラバス

教科名	芸術	科目名	音楽Ⅰ	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書：高校生の音楽①(教育芸術社) 副教材：高校生のための音楽研究ノート(教育芸術社)		
科目目標	・ 小学校、中学校の音楽に続く学習として、また生涯学習を固めるものとして、音楽の文化的背景に興味を持ち、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。				
履修上の注意点	・ 主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組むこと ・ 提出物は必ず期限内に提出すること				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	授業態度			○	
	鑑賞ノート			○	
	実技	○	○	○	
	楽典テスト	○	○		
	提出物			○	
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1		<歌唱>翼をください <歌唱>xo sole mio★ <鑑賞>交響詩魔法使いの弟子 <楽典>音名、リズムと拍子 ♪	2時間 5時間 2時間 5時間	日本歌曲の表現を学ぶ イタリア語の発音、表現を学ぶ 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ 読譜力をつける	③ ①、②、 ③ ①、③
		<歌唱>この道 <歌唱>Caro mio ben★ <鑑賞>ボロネーズ第6番 <楽典>音符と休符、長音階 ♪	3時間 5時間 2時間 5時間	日本歌曲の表現を学ぶ イタリア語の発音、表現を学ぶ 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ 読譜力をつける	① ①、②、 ② ①、③
2		<歌唱>Ombra mai fu★ <器楽>ギター <鑑賞>西洋音楽史 ♪ 交響曲第9番 <楽典>反復記号、音程、コード ネーム ♪	5時間 3時間 2時間 2時間 5時間	イタリア語の発音、表現を学ぶ ギターの奏法を学ぶ バロック時代～ロマン派時代を中心に学ぶ 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ 読譜力をつける	①、②、 ③ ① ② ①、③
		<歌唱>野ばら★ 歌の翼に <器楽>ギター <鑑賞>ウエストサイドストー リー	3時間 4時間 4時間 3時間	ドイツ歌曲の発音、表現を学ぶ コードの奏法を学ぶ 音楽の構成を理解し、作曲家の思いを学ぶ	①、② ①、② ③
3		<器楽>箏：さくらさくら <器楽>ギター弾き語り：カン トリーロード★ アンサンブル発表会★	2時間 3時間 5時間	箏の奏法を学ぶ ギターで弾き歌いをする クループで選曲し、パートを決め、練習し、発表する	③ ①、②、③ ①、②、③

令和6年度 シラバス

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅠ	履修学年	第 1 学年
単位数	3単位	使用教材	教科書 BIG DIPPER English Communication Ⅰ（数研出版） 副教材 BIG DIPPER English Communication Ⅰ ベーシックノート（数研出版）		
科目目標	英語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 (2) 日常的な話題や社会的な話題について、多くの支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握することができる。また、概要や要点を目的に応じて捉えることができる。 (3) 対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができる。また、聞いたり読んだりしたことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができる。 (4) 事前の準備などにおいて、聞いたり読んだりしたことを基に、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができ、また、文章を書いて伝えることができる。				
履修上の 注意点	・ 予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・ 授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・ 授業内のペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 ・ 提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○		
	中テスト	○			
	小テスト等			○	
	振り返りシート			○	
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	Lesson1 Lesson2 Lesson3	Have a Good Day with a Good Breakfast A Mascot with a Mission Two Kinds of Leadership	計 39	● 現在形、過去形、現在完了形、不定詞、動名詞、関係代名詞 who/which ● 発音記号からどのように発音するかを理解することができる。 ● 教科書の内容に基づいて、指示に沿った活動ができるようになる。 ● 学習したことを用いて、情報や自分の考えを発表することができる。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：振り返りシート・小テスト等
2	Lesson4 Lesson5 Lesson6 Lesson7 Lesson8	Older Sports and Newer Sports AI Meets the Arts What Is Happiness? The Maldives: A Dream Destination? Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream	計 39	● 比較、形式主語、分詞、関係副詞、SVOC と知覚動詞、関係代名詞 what ● 発音記号からどのように発音するかを理解することができる。 ● 教科書の内容に基づいて、指示に沿った活動ができるようになる。 ● 学習したことを用いて、情報や自分の考えを発表することができる。	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：振り返りシート・小テスト等
3	Lesson9 Lesson10	From Recycle to Upcycle Diversity at Japanese Companies	計 27	● 分詞構文、間接疑問文、現在完了進行形 ● 発音記号からどのように発音するかを理解することができる。 ● 教科書の内容に基づいて、指示に沿った活動ができるようになる。 ● 学習したことを用いて、情報や自分の考えを発表することができる	知：定期考査・中テスト 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：振り返りシート・小テスト等

※ 年間を通じて「読むこと」の目標として、WPM60 をクリアできるように音読課題を課す。

令和6年度 シラバス

教科名	外国語（英語）	科目名	論理・表現Ⅰ	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書 NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅠ（東京書籍） 副教材 NEW FAVORITE English Logic and ExpressionⅠ WORKBOOK（東京書籍） BIG DIPPER ビッグ・ディッパー高校英語（数研出版） BIG DIPPER ENGLISH GRAMMAR in 21 STAGES（数研出版） WORKBOOK for BIG DIPPER ENGLISH GRAMMAR in 21 STAGES（数研出版）		
科目目標	話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの3つの領域を中心に、次のとおり、英語を用いた発信能力を育成することを目指す。 (1) 学習者(learner)として、情報や考え、気持ちを伝え合い、やり取りを通して必要な情報を得るために、文型や基本的な文法事項について、学習し運用することができる。 (2) 使用者(user)として、外国語としての英語を運用しようとする態度や学習習慣を身に付けて、自らの学習に反映することができる。				
履修上の注意	・ 予習を丁寧に行い、授業に取り組むこと。予習も評価の対象になります。 ・ 授業で学習した内容をしっかり復習し、既習事項の定着を行うこと。 ・ 授業内のペアおよびグループ活動に積極的に取り組むこと。 ・ 提出物は期限を厳守し、指示通りに取り組むこと。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	パフォーマンステスト		○		
	自宅学習			○	
	振り返りシート			○	
	小テスト等	○		○	
	各観点の割合	30%	40%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	学習内容	時間数	学習目標	文法項目	評価項目
1	Lesson 1	初めての食事	計 26	褒めることができる。 進めることができる。 断ることができる。	動詞 / 否定文と 疑問文 基本文型 時を表す表現 完了形 助動詞	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：自宅学習、振り返りシート・小テスト等
	Lesson 2	道に迷う		提案することができる。 依頼することができる。 道順を説明することができる。		
	Lesson 3	人物紹介		身近な人物を紹介することができる。 注意を引くことができる。		
	Lesson 4	体調が悪い		体調を伝えることができる。 体調を尋ねることができる。 指示・アドバイスをすることができる。		
2	Lesson 5	買い物	計 26	描写することができる。 相づちを打つことができる。	受動態 不定詞 動名詞 分詞 関係詞	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：自宅学習、振り返りシート・小テスト等
	Lesson 6	行ってみたい場所		希望を述べることができる。 理由を述べることができる。		
	Lesson 7	イベントに誘われる。		誘うことができる。 誘いを受けることができる。 誘いを断ることができる。		
	Lesson 8	スクールカウンセラーに相談		状況を説明することができる。 手助けを申し出ることができる。 助言・提案することができる。 お礼や感謝を伝えることができる。		
	Lesson 9	お気に入りを紹介		映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介することができる。 感想や批評を述べることができる。		
3	Lesson 10	待ち合わせに遅刻	計 18	相手に謝ることができる。 相手を許すことができる。 相手を励ますことができる。	比較 仮定法	知：定期考査・小テスト等 思：定期考査・パフォーマンステスト 主：自宅学習、振り返りシート・小テスト等
	Lesson 11	家庭でのディスカッション		共感を述べることができる。 残念な気持ちを述べることができる。 解決策を提案することができる。		
	Lesson 12	英字新聞に投稿		要望や主張を述べることができる。 理由を述べることができる。		

令和6年度 シラバス

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	履修学年	第1学年
単位数	2単位	使用教材	教科書：「図説 家庭基礎」（実教出版） 副教材：「図説 家庭基礎学習ノート」（実教出版）		
科目目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 （２）家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 （３）様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。				
履修上の注意点	・日々の生活と社会の課題の結びつきに関心を持って授業に臨んでください。 ・調理実習や被服実習の実施において、気がかりなことがあればあらかじめ申し出てください。				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
	定期考査	○	○		
	学習ノート		○	○	
	実習課題		○	○	
	小テスト	○	○		
	各観点の割合	40%	30%	30%	

指導と評価の計画

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
1	第1章 自分らしい生き方と家族	①生涯発達する人生 ②これからの人生をデザインする ③青年期を生きる ④生活を支える労働 ⑤生活時間から見えてくるもの ⑥男女共同参画社会をめざして ⑦現代の家族 ⑧家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 ⑨家族に関する法律の理念と変化 ⑩家族にかかわる法律	26 (7)	・ライフステージ、発達課題、生活設計について理解させ、人生をデザインすることを考える。 ・労働、生活時間について考え、これからの家庭生活や社会の在り方、課題について主体的に考える。 ・家族、家庭の役割や取り巻く環境の課題について多角的に理解させる。 ・家族に関する法律の理念、現代の動き、婚姻、夫婦、親子、相続について理解させ、現代の家族・家庭について理解を深めさせる。	知：定期考査 思：ワークシート 主：学習ノート
	第2章 子どもとかわる	①子どもの誕生 ②からだの発達 ③運動機能の発達と知的発達 ④かわりのなかの発達 ⑤子どもの生活習慣と健康 ⑥子どもの食生活・衣生活 ⑦子どもと遊び（児童文化財製作） ⑧親になることを考えよう ⑨すこやかに育つ環境と支援 ⑩子どもを守る法律・制度	(10)	・子どもの身体の成長の特徴や運動機能の発達と知的発達について知り、発達には人とのかわりが必要なことを理解させる。 ・子どもの生活習慣の形成や健康管理、安全対策が重要であることを理解させる。 ・子どもの食生活、衣生活の重要性、子どもにとっての遊びの機能や課題を理解する。 ・子どもを育てる意義と家庭の重要性を理解させ、子どもとのかかわり方について、主体的に考えさせる。 ・子育て支援、子どもを取り巻く社会環境、子どもの福祉について理解を深めさせる。	知：定期考査 確認テスト 思：ワークシート 主：学習ノート レポート
	第3章 高齢者とかわる	①高齢社会に生きる ②高齢者を知る ③高齢者のサポートと介護の心 ④高齢社会を支えるしくみ	(4)	・高齢社会の現状を知り、高齢者の心身の変化や生活への理解を深め、高齢者を支えるための心持ちについて主体的に考える。 ・高齢者を支える介護保険制度のしくみを理解させる。	知：定期考査 思：ワークシート 主：学習ノート
	第4章 社会とかわる	①共に生きるために ②社会保険制度―公助― ③社会の一員としての私たちの役割	(3)	・福祉の考え方、社会保障制度を理解させる。 ・社会の一員として助け合うことの必要性を理解させ、自分たちの役割について、主体的に考えさせる。	知：定期考査 思：ワークシート 主：学習ノート
	ホーム・ロジックの実践		(2)	・生活の中の課題を発見し、改善するための計画、実施し、今後の課題を見だし、生活をよりよくする。	思：実習課題 (ホーム・ロジック)
2	第5章 食生活をつくる	①私たちの食生活と健康 ②5大栄養素 ③炭水化物 ④脂質 ⑤たんぱく質 ⑥ミネラル ⑦ビタミン ⑧その他の食品 ⑨食品の選択と表示 ⑩食品の衛生 ⑪食料自給率と食のグローバル化 ⑫食の未来と環境への取り組み ⑬食事摂取基準 ⑭食品群別摂取量のめやす ⑮献立作成 ⑯調理の基本 ⑰調理実習	26 (13)	・現代の食生活の傾向、健康的な食生活の必要性を理解させる。 ・栄養とからだのつながりを知り、5大栄養素のそれぞれのはたらきと多く含む食品について理解を深めさせる。 ・さまざまな加工食品、食品の安全な選択と取り扱い、食品添加物の目的や安全性、食品の衛生的な管理について理解を深めさせる。 ・食生活の世界とのつながり、環境面など多角的な視点から今後の食生活について、主体的に考えさせる。 ・健康な生活を営むために必要な食事の摂取基準、食品群について理解させ、献立作成を通して、実践的な力を身に付けさせる。 ・調理の理論とコツを理解させる。 ・調理実習を通して、調理の基礎を学ばせる。	知：定期考査 思：ワークシート 主：学習ノート 思：ワークシート 思：ワークシート 実技（調理実習）

学期	単元	指導項目	時間数	指導内容	評価項目
	第 6 章 衣生活をつくる	①人と衣服のかかわり ②健康で安全な衣服 ③衣服素材の種類と特徴 ④衣服素材の性能と改善 ⑤衣生活の計画と購入 ⑥衣服の管理 ⑦家庭での洗濯・保管 ⑧持続可能な衣生活をつくる ⑨被服実習	(13)	・人と衣服のかかわり、健康で安全な衣服について理解させる。 ・衣服素材の種類、特徴、性能、改善について理解させる。 ・衣生活の選択、購入、管理、洗濯、保管について理解を深め、実践できる力を身に付けさせる。 ・衣生活と環境のかかわりを考え、ファストファッションやエシカルファッションについて主体的に考える。 ・基礎縫いを実践し、生活に役立つ力を身に付けさせる。	知：定期考査 思：ワークシート 実技（被服実習） 主：学習ノート
3	ホームプロジェクトの発表		18 (2)	・ホームプロジェクトで実践した内容を発表し、発信力を身に付けさせる。	思：実習課題 （ホームプロジェクト）
	第 7 章 住生活をつくる	①人と住まいのかかわり ②平面計画からみた住空間 ③ライフステージと住まいの計画 ④健康に配慮した住まい ⑤安全な住まい ⑥持続可能な住まい ⑦リビングデザイン	(6)	・住まいの機能、住まいの文化について理解させる。 ・平面図、住まい方、健康に配慮した住まいの工夫、安全な住まいについて理解させる。 ・環境に配慮した住まいについて理解させ、現代の課題、今後の住まいについて主体的に考えさせる。 ・ひとり暮らしのレイアウトコーディネートを考えさせ、快適な住空間を計画させる。	思：ワークシート 主：学習ノート
	第8章 経済的に自立する	①日々の収入・支出を把握する ②社会と家計の変化 ③長期的な経済計画を立てる ④経済のなかの家計	(4)	・生活にかかわる収入と支出、現代の家計の特徴について理解させる。 ・生活のリスクなどに備えた経済計画、国民経済、国際経済について理解させる。	思：ワークシート 主：学習ノート
	第 9 章 消費行動を考える	①契約と主体的な消費行動 ②多様化する販売方法と問題商法 ③消費者を守る制度・法律 ④多様化する支払い方法 ⑤消費者の権利と責任 ⑥持続可能な社会の構築 ⑦持続可能な社会をめざす取り組み	(6)	・契約に関する理解を深め、生活情報を読み解く力、多角的に考える力を身に付けさせる。 ・通信販売、問題商法などについて理解を深め、消費者を守る制度・法律について理解させる。 ・多様化する支払方法のしくみを理解し、自分に合った決済手段を選択できる力を身に付けさせる。 ・地球的規模の環境問題を知り、持続可能な社会に向けた取り組みを理解させ、環境に配慮した行動や選択を主体的に考えさせる。	思：ワークシート 主：学習ノート

教科名		情報	科目名	情報Ⅰ	履修学年	第1学年
単位数		2単位	使用教材	教科書 数研出版「情報Ⅰ Next」 副教材 実教出版「パーフェクトガイド情報」		
科目目標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
履修上の注意点		・プリント授業とコンピュータを利用した実習授業を行います。 実習授業の回に欠席すると、実習点がつきません。とにかく出席し、実習に取り組む				
評価方法	学習活動	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度		
	定期考査	○				
	ワークシート			○		
	実習課題		○			
	小テスト			○		
	各観点の割合	40%	30%	30%		

指導と評価の計画

学 期	単 元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
1	第1章 情報社会 と問題解決	①情報とメディア ・情報の特徴 ・情報の表現形式 ・問題解決	26 (4)	・情報とは何か、情報の信ぴょう性とは何かを理解させ、クロスチェックの重要性を実感させる。 ・情報によって適した表現形式（メディア）が異なり、表現形式の変換が可能なことを理解させる。・問題解決のプロセス（PDCA サイクル）を具体例をもとに理解させる。（実習1：問題解決）	知：定期考査 思：実習1（問題解決） 主：ワークシート 振り返りシート
		②情報社会における法とセキュリティ ・情報社会 ・個人情報 ・知的財産権 ・著作権 ・情報セキュリティ	(7)	・個人情報保護の重要性や活用について理解させ、肖像権・プライバシー権についても理解させる。・著作権と産業財産権の保護の必要性を十分に理解させ、著作権法がどのようなものか具体的に理解させる。・ユーザ認証、アクセス制御など、情報セキュリティを高める技術について理解させる。・情報セキュリティを脅かす事例やコンピュータウイルスについて知り、その対策の具体例を理解させる。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		③情報技術が社会に及ぼす影響 ・情報技術の発展 ・情報技術の適切な活用	(4)	・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会や生活の変化について理解させる。 ・インターネット上のさまざまなトラブルを学び、情報技術の適切な活用について理解させる	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
	第2章 コミュニケーションと情報デザイン	①情報デジタル表現 ・デジタル情報の特徴 ・デジタル情報の表し方 ・デジタル表現 ・データの圧縮	(6)	・アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを理解させる。・ビットの概念を理解させ、それを表現するための2進法や16進法について学び、さらに2進法を用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現を理解させる。・音、画像、動画のデジタル化の原理を理解させる。（小テスト1（2進数）） ・デジタル情報ならではのデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート 小テスト1（2進数）
		②コミュニケーション手段の発展と特徴 ・コミュニケーション手段の発達 ・情報の発信とメディアの性質	(3)	・古代からの技術的な進歩を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。 ・情報を発信するときのメディアの性質を知り、適切なメディアの選択ができるようにする。	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート
		③情報デザイン ・情報を表現する方法 ・効果的な情報デザイン	(2)	・情報デザインについて、情報を抽象化・構造化・可視化する方法を習得し、表現を工夫できるようにする。（実習2（デザイン）） ・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。	知：定期考査 思：実習2（デザイン） 主：ワークシート 振り返りシート
2	第3章 コンピュータとプログラミング	①コンピュータの仕組み ・ハードウェアソフトウェア ・コンピュータでの数値の内部表現	26 (4)	・コンピュータの基本的なしくみとはたらきを理解させる。CPU、メモリ、補助記憶装置、入出力装置、OS、ファイルの基礎について理解させる。・コンピュータの内部における数の表現方法について理解させる。（実習3（PC購入））	知：定期考査 思：実習3（PC購入） 主：ワークシート 振り返りシート

学 期	単元	指導項目	時 間 数	指導内容	評価項目
		②プログラミング ・アルゴリズム ・プログラミング ③モデル化とシミュレーション表 計算ソフトの活用 ・モデル化 ・シミュレーション	(14) (8)	・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を習得させる。・コンピュータによる処理手順の自動実行の有用性を理解させる。・プログラミングの基本的な考え方を理解させる。 (実習4～実習8(VBA)) モデル化やシミュレーションの考え方や手順を理解させ、実際の問題解決に活用できるようにする。 (実習9(シミュレーション))	知：定期考査 思：実習4～8(VBA) 知：定期考査 思：実習9(シミュレーション)
3	第4章 情報通信 ネットワ ークとデ ータの活 用	①ネットワークの仕組み ・コンピュータによる通信 ・通信プロトコル ・パケット通信 I・Pアドレスとドメイン名 ・WWWと電子メール ・情報の暗号化 ②データベース ・データベース ・社会における情報システム ③データの分析 ・さまざまなデータ ・データの分析	18 (8) (2) (8)	・コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルについて理解し、インターネットでの通信の原理を学ぶ。 ・パケット通信の原理とメリットについて理解させる。 ・IPアドレス、ドメイン名、URL などによるインターネットでの電子メール・ウェブ閲覧、暗号の原理について理解させる。(小テスト(IPアドレス)) ・データベースの概念や、データベース管理システムの機能について理解させる。 ・データベースが活用されている情報システムについて、その種類や特徴を理解させるとともに、それらが社会生活に果たす役割と影響を理解させる。 (実習10(データベース)) ・データを分析する前に必要となる、データの形式に関する知識やデータの収集方法、データの種類について理解させる。 ・数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアなどを使って簡単な数学的データ処理や分析を行う。(実習11(データ分析))	知：定期考査 主：ワークシート 振り返りシート 小テスト(IPアドレス) 知：定期考査 思：実習10(データベース) 知：定期考査 思：実習11(データ分析)